

日本のインフラについて語る東京都市大学の中村総長(左)



日本のインフラ歴史を紹介

東京都市大・中村総長

室工大で特別講演

室蘭工業大学(佐藤一彦学長)と包括連携協定を締結している東京都市大学の中村英夫総長が30日、室工大を訪れ、日本のインフラをテーマにした特別講演会に臨んだ。

学生ら200人余が聴講した。中村総長は明治時代から本格化した鉄道や港湾、道路など日本のインフラ整備の歴史を紹介。青函トンネルや東京駅など大型プロジェクトは写真などを活用して丁寧に説明した。

今後について中村総長は「老朽化した施設の更新、補修事業が一層重要になる」とメンテナンスの必要性を強調した。さらに「インフラは基礎段階が終わり、上級事業へと移り変わっていくだろう」と事業の高質化の見通しを説いた。

(佐藤重伸)